当サイトはこちらよりご覧になれます。

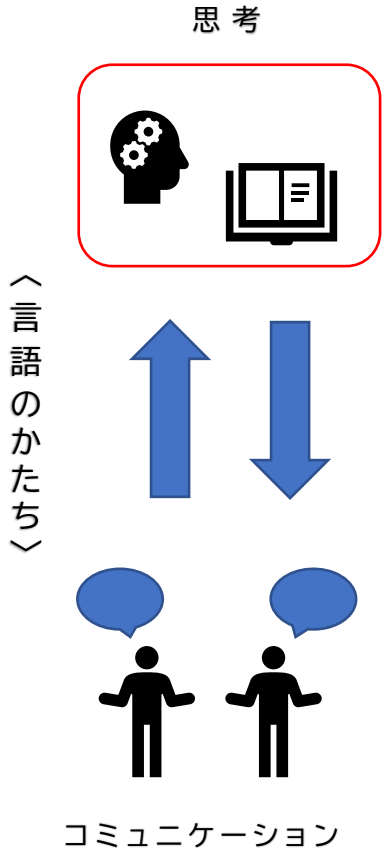
©学習 PROJECT

★言語論 ―世界よりも先にあるもの―

言語論は評論の重要なテーマのひとつです。しかし、言語論が出題されると「何を言っているのかさっぱり…」となってしまう人が多いようです。ある程度、言語論についてはおさえておいた方が良さそうですね。

言語の役割について考えてみましょう。まず一番に挙がるのはコミュニケーションの道具だという点ですね。人間は言語を用いて他者とコミュニケーションを図る生き物です。たしかに、その考え方も大切ですが、評論では少し違う面から言語を捉えていきます。

その一つは、「思考」という側面です。私たちは**母語**をはじめとする言語を使って思考しています。言語は、ただコミュニケーションを取るための道具ではなく、物事を考える**理性**的側面も持っています。そのため、言語や理性、論理などをまとめた用語が存在して、それを**ロゴス**と言います。



◎評論キーワード

- **母語**：幼児期に自然と身につけた言語。
- **理性**：物事を筋道立てて考え、判断する能力。
- **ロゴス**：言語や理性、論理。

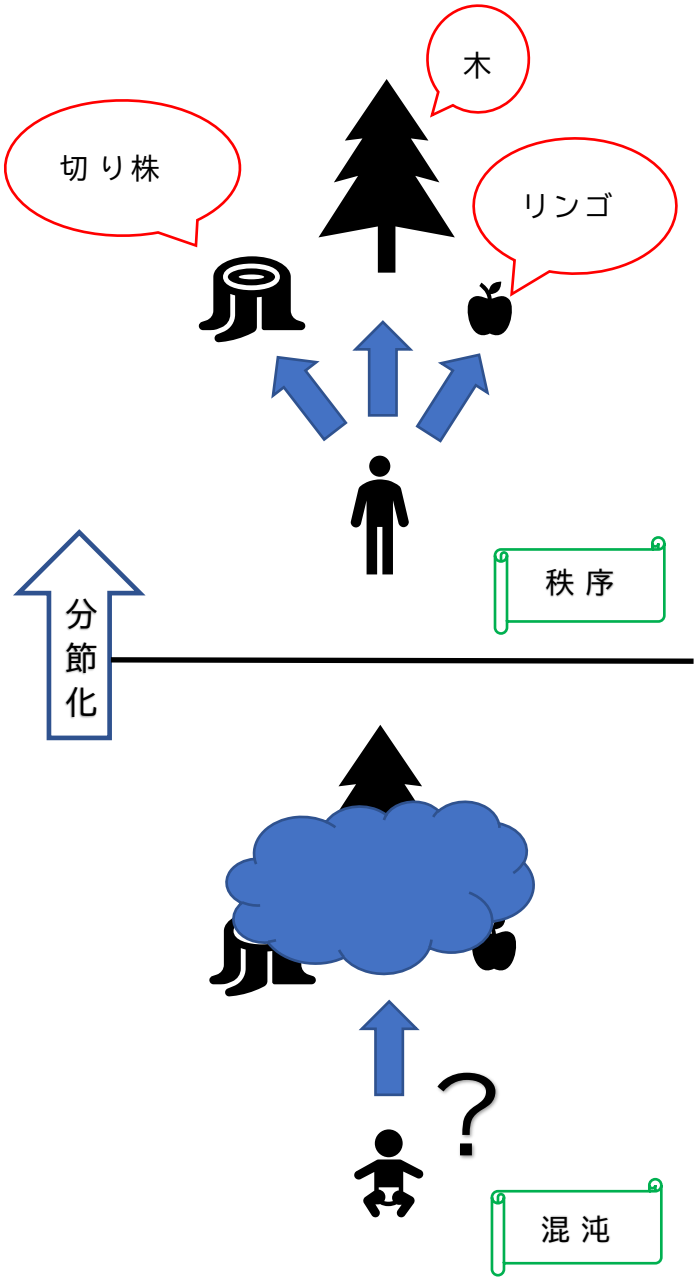
©学習 PROJECT

また、言語には「**概念化**」という最も重要な側面もあります。この点が評論ではよく出題されます。

「世界よりも先に言語がある」、というと変な感じがしますよね。しかし、それが成り立つのです。少し説明しましょう。

幼児期に見えていた風景はなにやらぼんやりとした、全体が地続きの景色でしたが、成長するにつれて少しずつ世界の輪郭がはっきりしてきます。これは言語が世界を**分節化**し概念化したからです。言い換えれば、**混沌**を**秩序**に変えたのです。

私たちが今目の前に見ている世界は、言語によって意味づけられ、区切られた世界なのです。そのため、世界よりも先に言語があると言えるのです。



◎評論キーワード

- **概念化**：物事がどのようなものかを言葉で規定すること。
- **分節化**：物事を区切り、概念に分けること。
- **混沌**：物事の整理が付かず入り交じっている状態。
- **秩序**：物事が整理されている状態。「混沌」の対義語。

©学習 PROJECT

言語のその他の面も見ておきましょう。今までは言語の理性的側面を扱いましたが、反対に、言語には情念（パトス）的側面があります。

例えば、小説や詩は多くの人の心を揺り動かし感動させます。また、短い言葉で真理を突いた警句（アフォリズム）も人々を魅了します。これらは言語が人間の深層心理に訴えかけてくる良い例ですね。

また、言語はコンテクストに依存します。例えば、「おいしいね」の意味は、食べ物が「おいしいね」なのかもしれないし、あるもうけ話が「おいしいね」なのかもしれません。このように、同じ「おいしいね」でも、文脈によって意味が異なります。

その面で、言語は記号と共通しています。例えば、青信号の場合、電球が青く光っているだけなのに、私たちは「進め」と解釈しています。これは、社会背景が文脈として機能しており、まったく違う社会では「進め」という解釈にはならないでしょう。

◎評論キーワード

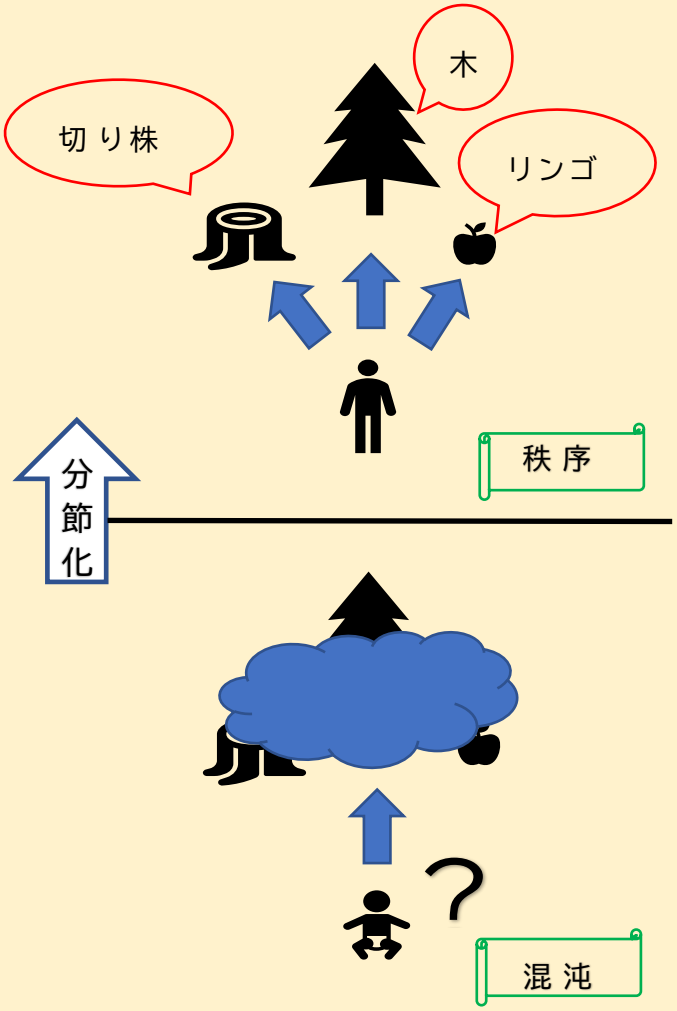
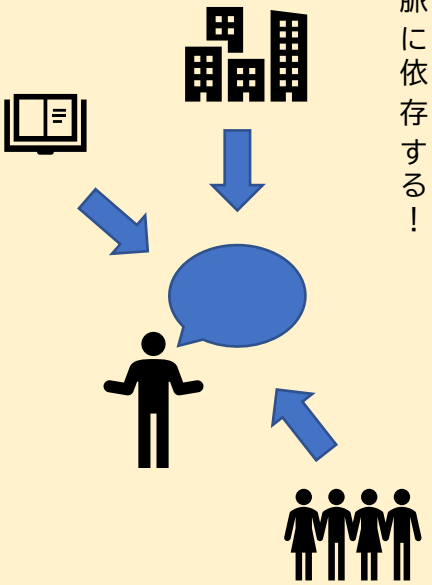
- **情念**：心にわき、つきまとう感じと思い。パトスとも。「理性」の対義語。
- **警句**：短い中で真理を突いた言葉。アフォリズムとも。
- **コンテクスト**：文脈、背景、状況。
- **記号**：それ自体ではなく、それを解釈することで理解される意味を伝える媒体。

©学習 PROJECT

★言語論　《まとめ》

●言語は思考の道具でもある！

●言語の分節化作用によって秩序が生まれる！



●言語は文脈に依存する！